2021. 6. 6

さよならも言わずに行ってしまったT先生

(旧)地球史最後の“KTセミナー”

そのラストのエネルギーワークでは、涙が溢れて止まりませんでした

「KT」とは、“カーちゃん”と“トーちゃん”であり、KTセミナーとは

プロデュース by **“根源の母神(K)”**&**“根源の父神(T)”**

=“根源太陽神”&**“宇宙(地球)神”**によるセミナー(神事)という事になります^^

今一瞬あり得ない？！気がしたのですが、シンプルに、私達人の“真の姿”とは？を考えてみると

一なる至高の根源、全ての命(愛)の源である“根源太陽母神”から生まれ、

根源父神そのものである、宇宙(＆地球)という∞のレベルの、進化の学びの場を生きている

“永遠の魂”=“根源の子供達”――なのですから、やっぱりそれでよいのです！^^

普通に人としてありながら、遥か宇宙の根源まで続く∞の次元の中の、どこに意識を合わせるか？

何を一番大事とするか？ということなのだと思います

セミナーの高度な内容については、ほとんど理解できていない(^^; 地上セルフですが、

どうしても参加したい！と思うのは

いつか、どこかの懐かしい記憶。。。？ 根源の母と父と子の、“永遠の愛の絆”をしっているから。。。

滂沱の涙が、その証と言えるのかもしれません^^

「T先生との合同セミナーは、もうこれが最後！」と言われながら、何回続いたでしょう(笑)

実は、笑いごとではありません

T先生は、私たちの成長(魂の進化)を、ずっ～と待ち続けて下さったのです

「本当は、五年前にこれをやりたかったんだ」とのお言葉に、深い御心が見えた気がしました

私達は一体、どれほどのものをいただいたのだろう…

どうしようもないほどの愛であり、同時に、莫大な責任でもあるような気がして

喜びと切なさ、期待と緊張とが入り混じった複雑な気持ちで、セミナー会場を後にした私でした

時間が経つほどに感じられてきたのは、**“終わりのはじまり――”**

旧宇宙(＆旧地球)から、新宇宙(＆新地球)への大いなる転換という、地上セルフにとっては

未だ夢としか思えなかった(思っていたかった？)現実が、真にはじまった！という事ではないでしょうか

間違いなくそうである！との、明確な言霊から創造されていく、宇宙なるものの“真の姿”であり
神（創造主）に似せて創られた私達人の、本来の在り方なのだと思います
とても勇気のいる事ですが、それをはじめなければならない
地上に生きる“地上セルフ”に、宇宙の全ての次元（ハイアーセルフとそのネットワーク）を統合すること
神と人、非物質界（宇宙）と物質界の境を越えて、神人、宇宙人（天界人）となり
NMC の雛形である、新しい地球の創生＝“地球維新”をはじめる事なのだと思います
新たな創造のためには、旧の大掛かりな破壊が必要ですが、大切なものは決して無くならない！
それを守る（旧世界のカルマを克服し、∞のパワーに変える）のが“白山神界”でもあると、私は思います

半年ぶりの京都、KT セミナーの前に訪れたのは、“**護王神社**（ごおう）”です^^

御祭神は、“**和気清麻呂公命**（わけのきよまろこうのみこと）”と、その姉の“**和気広虫姫命**（わけのひろむしひめのみこと）”
配神は、“**藤原百川公命**（ふじわらももかわこうのみこと）”・“**路豊永卿命**（みちのとよながごうのみこと）”

何度か訪れたことがあるのですが、珍しい狛猪がいる“イノシシ神社”とのイメージが強烈で
創建や御祭神について、ほとんど知らなかったことに気づきました (‘◇’)ゞ

前回のコンテンツは、白山七社の一つである、瓊瓊杵尊を御祭神とする、“金劔宮”についてでしたが
瓊瓊杵尊の眷属が“白い猪”であるとお聞きしていたので、そのお導き？かもしれません^^
また護王神社は、明治天皇の勅命によって、京都御所蛤御門前の現在地に造営されたとのことで
皇室にとって、とても重要な神社であることも、選んだ理由の一つです
私が明治天皇に感じるのは、和歌の心（愛と誠の言霊）――、明治維新、そして地球維新へと導く
日本国の柱、国祖“国常立太神”＝トーちゃん^^の一つの御姿であるような気がします

地下鉄を降り、京都御苑内にて到着のご挨拶をし、護王神社へと向かいました
和気清麻呂公について最もよく語られるのが、道鏡による「宇佐八幡宮神託事件」ではないでしょうか

護王神社は、和気氏の創建による高雄神護寺境内に作られた、
和気清麻呂を祀った護王善神社に始まる。正確な創建の年代は不詳である。
和気清麻呂と姉の広虫は、宇佐八幡宮神託事件の際に流刑に処せられながらも、皇統を守った。
孝明天皇はその功績を讃え、嘉永 4 年(1851 年)、和気清麻呂に護王大明神の神号と、
正一位という最高位の神階を授けた。
天皇自らが人臣に対して神階を授けたのは、これが初めてである。
明治 7 年(1874 年)、護王善神社を護王神社に改称し、別格官幣社に列格した。
明治 19 年(1886 年)、明治天皇の勅命により、
京都御苑蛤御門前付近にあった、公家の中院家の邸宅跡(現在地)に遷座された。
大正 4 年(1915 年)、大正天皇の即位の際に広虫が合祀された。
広虫は孤児救済事業で知られることから、子育明神と呼ばれる。　(ウィキペディアより)

つづいて、護王神社ホームページより

【道鏡事件】
奈良時代末の神護景雲3年(769)、当時法王となり権勢をふるっていた僧・弓削道鏡が、
「道鏡を天皇にせよ」という、九州・宇佐八幡のご神託があったとして、天皇になろうとたくらみます。
清麻呂公は称徳天皇に命じられて、そのご神託の真偽を確かめるため宇佐八幡へ赴き、
ご神託が偽物であったことを報告。
清麻呂公は身を挺して道鏡の野望をくじき、世の中の平安のために活躍されました。
しかし、道鏡の怒りを買った清麻呂公は、広虫姫とともに流罪にされてしまいます。

皇統を守った和気清麻呂公に対して、
天皇(孝明天皇)自らが、初めて、人臣に神階を授けたとされる事、
また、明治天皇の勅命によって、千年の都、御所の目前に遷座されたことを知り、
あらためて、和気清麻呂公が命をかけて果たした役割の大きさ、偉大さに、深い感動を覚えました

私にとって、"皇統を守る"とは、皇祖神である"天照大御神"を守ることであり
それは同時に、その"分御魂(わけみたま)"である私達一人一人の"魂"="命"を守る事でもあります
そして最も重要なことは、NMC(新宇宙)が誕生した今、
私たちの魂は、新宇宙の核心である"根源天照皇太神"へとつながっている！という事で
和気清麻呂公は、**その道を守った！**ということでもあります^^

瀕死寸前の、中今の地球の姿をみれば
人類の歴史は、間違いだらけ、失敗だらけであったかもしれませんが
最も大切なものは、**人の真心によって必ず守られてきた！！！** 私はそう信じます！
それが、根源太陽母神(根源天照皇太神)の分御魂である、私たちの核心
="**大和魂**"**のパワー！！**ではないでしょうか

「天つ日嗣は、必ず皇緒を立てよ！」と一刀両断の如く、和気清麻呂公を導いた宇佐八幡とは

どのような神社なのか、興味が湧いてきました^^

日本の神社の中で最も数が多い？のが、八幡神社といわれます

その総本宮とされるのが、大分県宇佐市にある“宇佐神宮”で、主祭神は以下の三柱です

一之御殿…**八幡大神**　誉田別尊（応神天皇）とする

二之御殿…**比売大神**　地主神　宗像三女神（多岐津姫命・市杵島姫命・多紀理姫命）とする

三之御殿…**神功皇后**（別名として息長足姫命とも）

ここで、不思議な記載をみつけました

「主神は、一之御殿に祀られている八幡大神の応神天皇であるが、

ただ実際に宇佐神宮の本殿で、主神の位置である中央に配置されているのは比売大神であり、

なぜそうなっているのかは、謎とされている。」（ウィキペディアより）

社伝等によれば、欽明天皇 32 年（571 年?）、宇佐郡厩峯と菱形池の間に鍛冶翁（かじおう）降り立ち、

大神比義（おおがのひき）が祈ると、三才童児となり、

「我は、譽田天皇廣幡八幡麻呂（註:応神天皇のこと）、護国霊験の大菩薩」と託宣があったとある。

宇佐神宮をはじめとする八幡宮の大部分が

応神天皇（誉田天皇）を祭神とするのは、そのためと考えられる。

八幡神は、これほどの広がりを持つのに、神話には登場しない、不思議な存在なのだそうです

これらの事から想像されたのが（私見ですが…）

神殿中央に祀られている地主神とされる“比売大神”とは、“白山比咩（秘）大神”の事なのでは？です^^

白山神は、太古から日本列島を護りつづけてきた八百万の神々の、総元締めのような存在であり

神社が創建される以前から、その土地を見守ってきた地主神でもあるのだと思います

その白山比咩大神のもとに、応神天皇と神功皇后が寄り添った姿が、八幡神なのかもしれない。。。

“八”は太陽の数霊であり、“幡”は秦（国体護持の八咫烏）

八幡宮は、秦氏によって地上に張り巡らされた、太陽神界ネットワークでは？！

神宮（神功）皇后は太陽神界のトップであり、応神天皇はそのお腹にいた時から決まっていた“天つ日嗣”

三才の童児となって現れ、国を護る！と宣言する、まさに力強い太陽の御子です^^

中今の八幡宮御祭神とは、“**根源天照皇太神**”（神功皇后）と、皇御子“**瓊瓊杵尊**”（応神天皇）と、

根源天照皇太神分身＝“**白山菊理姫**”（比売大神、比咩大神）であり

神話にでてこないのは、未来（根源）からやってきた“ウィングメーカー”だから！！

これが護王神社の、白猪さんからのメッセージ！かも？^^

大きなお椀とお箸の前で
ご馳走が出てくるのを、心待ちにしている
可愛い子供イノシシ。。。にしか見えませんが（笑）

あっちにもこっちにも イノシシが いっぱい？！

雌雄一対の霊猪像（れいちょぞう）

京の昔ばなし

いのしし神社のおはなし

奈良時代・称徳天皇の御代、法皇となって権勢をふるっていた弓削道鏡は、
天皇の位をわが物にしようと、「自分を皇位につかせたなら天下は太平になると
宇佐八幡より御神託（神様のお告げ）があった」とウソをつきました。
天皇から御神託が本当かどうかを確かめてくるよう命を受けた和気清麻呂公は、
九州の宇佐八幡へ行き、御神前に「真意を示したまえ」と叫びました。
すると光の中から宇佐の大神が現れ、
「天皇の後継者には必ず皇族の者を立てなさい。無道の者は
早く追放してしまいなさい」と御神託を下されました。
都へ帰った清麻呂公は、このことを天皇に報告し、道鏡の野望を暴きました。
道鏡の怒りを買った清麻呂公は、大隅国（鹿児島県）に流されることになり、
その旅の途中、道鏡の放った刺客に襲われ、足の筋を切られてしまいました。
それでも清麻呂公は、皇室の安泰を守られたことを感謝するため、
宇佐八幡へ立ち寄ることにしました。
そして一行が豊前国（福岡県東部）にさしかかった時、
どこからともなく三百頭ものイノシシが現れ、
清麻呂公の輿の周りを護りながら十里（約四十㎞）の道のりを案内してくれたのです。
イノシシたちは宇佐八幡に着くと、またどこかへ去って行きました。
清麻呂公を悩ませていた足の痛みも不思議と治っていました。
一年後、称徳天皇の崩御により道鏡は失脚すると、清麻呂公は都へ呼び戻され、
晩年まで世のため人のために尽くしました。
清麻呂公の立派な人柄とともに、彼を護ったイノシシのお話は、
後世まで語り継がれることとなりました。
清麻呂公を祀る護王神社には、狛犬の代わりに狛いのしが建てられ、
今も清麻呂公を護り続けています。

足腰の守護神
いのしし
護王神社

絵・清麻呂公を護る
三百頭ものイノシシ

霊猪手水舎

黄金の猪？！　見事なチェーンソーアートです

ちなみに八幡神社（天照系、K 神界）と同じ程あるとされる“稲荷神社”は、

豊受神＝T 神界なので、二神がタックルを組めば、日の本に怖いものなし？！では^^v

本殿を奥に控える、中門です

太陽神界の入り口？　黄金の光の神殿で微笑む、和気清麻呂公と広虫姫を感じます^^

「この門は、すべての人の為に開かれています。私達と同じように、光（太陽）の道を進んでください。」

そのようなメッセージが聞こえてくるようです

「はい！ありがとうございます」(^^)/

和気清麻呂公の銅像と、その後方に見える“さざれ石”です

平安京遷都の進言者であり、自らも造宮大夫に任ぜられ、建都に尽力したとされる清麻呂公

今も、御所の方角を見守るように凛と立つ御姿に、威厳と、不動の忠誠心を感じます

背後にある“日の丸”が、印象的です

幅三メートル、高さ二メートルもある、日本で一番大きな“さざれ石”との事です

―君が代は 千代に八千代に さざれ石の巌となりて 苔のむすまで―

さざれ石で浮かんでくるのが、学校で何度も歌った『君が代』です^^

古今和歌集の中の、詠み人知らずの歌の一部分が変更（我君は→君が代は）されたもので

「歌詞」としては世界最古の国家である事を、今回初めて知りました

今思うと、“君が代”とは何を指すのか？なんて、これまで一度も考えた事がありませんでした

言葉にしてみると、「日本国の象徴である“天皇”の治世」では？と感じますが

何となくシックリこない気がするのは何故。。。？（これがハートではなく、頭で考えているという事なのかも？）

とても自然に受け入れていた事が、今更ながら不思議な気がしてきました

「君＝きみ」とは、“イザナギ・イザナミ”の「キ・ミ」であり、すべての二元性（陰陽）のはじまりを表す、等の

様々な解釈が出来るようで、まさに日本の言霊の、∞のレベルを象徴する歌である気がします

中今で、『君が代』にフォーカスしてみたいと思います^^

“君が代”とは、どこか外（他）の世界ではなく、自分の中心、真の、永遠の自己である“魂”という

“究極の愛の太陽”そのものであり、それは全ての魂（命）の故郷

＝宇宙の一なる至高の根源太陽（根源天照皇太神）へと続く、普遍の愛の道であるような気がします

“さざれ石”（細かな石）とは、私達一人一人の魂のことで

地球という、究極の学びの場を懸命に生きることによって、磨かれ、統合され、

やがて強固な“巌”＝一枚岩（ワンネス）となっていく、進化の過程が表現されているのではないでしょうか？

そのためには、“千代に八千代に”＝何世・何代もの、気の遠くなるほどの年月がかかるでしょう

（その悠久の年月を、陰から支え、見守り続けましょう）

さらに“苔むすまで”＝永遠に、**根源への回帰（根源へのアセンション）**の道を

全ての魂と共に、歩み（待ち）つづけましょう――

皇御母（根源母神）に向けての宣誓？

途中からまるで返歌のような。。。（**根源の母心？**）と一体化している気持になりました^^

“君が代”とは私にとって、**大きな赤い愛の太陽＝“日の丸”**です！

正門を入ると、すぐ正面に見えてくるのが“拝殿”です

四方が解放されていて、神楽殿というか、何かの舞台？のような感じがして
なんとなく気になります。。。

“四神相応図”というタイトルの掛け軸があり右手から、“青龍”、“朱雀”、“白虎”、“玄武”が描かれています
どのような意味をもつのか？調べてみると、
京都“平安京”は、風水でいう“四神相応の地”として有名なのだそうです
「東に流水あるを“青龍”といい、南に沢畔あるを“朱雀”といい、西に大道あるを“白虎”といい
北に高山あるを“玄武”という」この四つ（四神）に囲まれている地の事で、具体的には、
北の玄武が船岡山、南の朱雀が巨椋（おぐら）池、東の青龍が鴨川、西の白虎が山陰道（または山陽道）との事です
別の説もあるようですが、いずれにせよ平安京が千年以上も続いたのは、
風水的に理想の地であった事が大きいとされます
私が拝殿を見て気になったのは何故か？という理由も見えてきました

その真ん中、四方（四神）の中心にあるもの感じたからで、それはこの絵にはない、四神の長とされる“黄龍”！

黄金色に眩しく輝く、日の本の黄金龍体＝“国常立太神（地球神、T）”です！^^

本殿には“K”（根源 K 神）がいて、それを守るように、拝殿には“T”（根源 T 神）がいる

そして、“KT”に向かって猪突猛進する、黄金の猪さん（根源の子供達）？！も^^

護王神社には、根源の父と母と子の“三位一体力”がある！

まさに今この時のKTセミナーにピッタリ！の神社だったのではないでしょうか^^

というより、私自身がそうしている、という事なのかもしれません？

神界とは、私たちの“魂”（ハイアーセルフ）の次元であり、自己の現実創造の場でもあります

護王神（社）界という、素晴らしいエネルギー場に降りてくる、高次元の神々との協働創造によって

自身が望む世界の、一つの“雛形”を創造しているのでは？という事です

私の願いは、護王神社から、そしてここを訪れる方々を通して、根源の愛と光を∞に拡大したい！であり

ご祭神である和気清麻呂公と広虫姫も、また同じ思いなのではないでしょうか^^

根源の“愛と光”（神）の最大のポータルは、魂という神殿を内に持つ私達“日戸（ひと）”（太陽の戸）です

地上を自由に動き回る事が出来る“肉体”と、あらゆる次元の壁を超えていく“意識”の力、その両方を使って

日本に古くからある神社（仏閣）を活性化し、つないでいく＝レイライン（光の道）の復活という、

新しい地球創造の為の、神仏の良きパートナーとなれるのでは？と思うと、すごく嬉しくなってきます^^

“地球維新”であり、それに先立つ（まずエネルギーが生まれ、やがて形となるので）“地球維神”でもあります

自身のミッションとして感じることは、世界の山々をつなぐ事です

白山（神界）は“聖なる山の王”と言われます

山とは、人の力では決して動かし得ない、不動の大自然、ずっとそう思ってきましたが

大きな山々は、それぞれが宇宙の壮大なる文明へとつながる“神工のピラミッド”であるという事

地球は“NMCの雛形”とされるのですから、神々によって準備されていたとしても、不思議ではありません

宇宙中の超高度で多彩な文明を結集した、根源の黄金の光に輝く“皇の星地球”創成！

これ以上の夢はないのではないでしょうか^^

白山が“根源の光の山”として、そのパワーを全開にすることによって、世界の山々が目覚めていく――

一人（地球だけ）では出来ないことも、宇宙みんなで力を合わせれば、必ずできる！

地球維新、そして宇宙維新！！

私たちはそれをやるためにこの地上に生まれ、生きて来た！！！必ず成し遂げます！！！

7月1日は、白山夏山開きでした^^

その日は、地上セルフが根源の光のポータルとして白山の頂上に立つイメージで、

富士山と共鳴し、日本の山々を根源の光でつないでいく、日の本の黄金龍体活性化のエネルギーワーク

世界の高山にエネルギーを贈り、世界中を黄金の光で包んでいくワークを意識しました

宇宙のすべての高次が降りてくることの出来るエネルギー場が生まれれば、協働創造が可能となります

翌日の朝起きて、ふと浮かんだイメージが、なんとこれ！（笑）

ハムが一緒にいて、応援してくれていたんだ！と感じられて、すごく嬉しかったです^^

2021年6月26日、石川県松任市にある“若宮八幡宮”へ行ってきました^^

護王神社をきっかけに、八幡神社にフォーカスする事となり

以前参拝しようとして断念した、地元の八幡宮に、再度チャレンジしました

チャレンジとは？ですが、2018年に一度訪れたものの、何故かカラスさんの攻撃？！にあい

逃げ帰ってしまったのでした（笑）

表参道に3羽の大きなカラスさんがいて、そばを通ろうとしたのですが、

出ていけとばかりに頭をつつかれ？蹴られ？(*_*)そうになり、あわてて鳥居の外へと駆け出しました

こんなことで参拝をあきらめていいのか？と思い直し、再度入ろうとすると

やっぱり、私めがけて飛んできます？？（子育て中だった？）

カラスさんは（ちょっと怖いけど）友達と思っていたので、ものすごくショックで

境内の周りをトボトボ歩いていると、道端にカラスの羽を見つけ、気持ちがリセットされていく感じ…

気を取り直し、その場は一旦帰る事としました

ネットで調べてみると、「カラスの羽は幸運の印、強力な守護」とあり、

カラスさんのメッセージは何かしら？と思いながら、再び訪れるチャンスをうかがっていました^^

（もちろん、また蹴られそうになったら、即逃げます、笑）

若宮八幡宮の御祭神は、“応神天皇”です

（以下、ホームページより）

≪境内社について≫

太古の時代、神様と人とは厳格に区別されており、人霊を大神様としてお奉りすることはありませんでした。

時がたち、人霊を神様としてお祭するようになりましたが、その場合、三大神霊を同時に配祀するようになりました。

これを、四魂鎮斎といいます。

四魂とは、和魂、荒魂、奇魂、幸魂をいい、人霊では、四魂を具足しえないという事で、

人霊に三魂を附与して神格として、奉祀したのです。

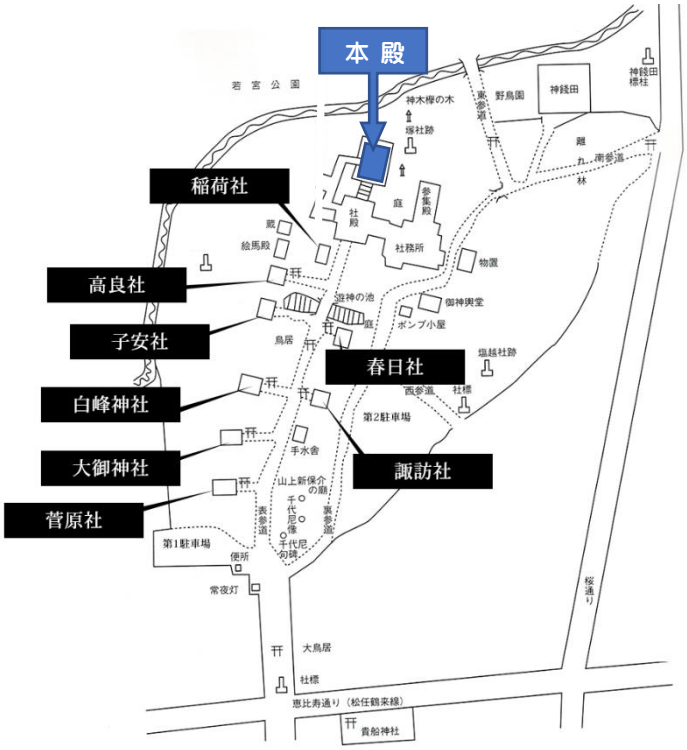
山上新保介が、相洲の由比郷より、若宮八幡宮を勧請するにあたり、

ご祭神が応神天皇一柱であるがために、四魂鎮斎の古義に叶う完全な社を造営しようと、

創立時に境内社も同時に建立し、祭祀されたものと考えられます。

元は十一社ありましたが、本社への合祀などを経て、現在は八社となっております。

このようにあり、緑豊かな美しい参道脇に、それぞれ立派な八つの境内社が並んでいます



菅原社

御祭神　菅原道真公

道真公は文章道の家に生まれ、五歳で和歌を詠じたといわれ、諸道芸能・学問の守護神としてその願いをかなえてくれる神様です。
道真公の人格を尊敬するところより生まれた信仰であり、その時代により、悪者を罪する神、罪を救う神、慈悲救済の神として信仰を集めました。道真公の死後、その神霊に天満自在天神（てんまんじざいてんじん）の号を賜ったことにより天神様（てんじんさま）と言われるようになりました。
京都の北野天満宮、福岡の太宰府天満宮が道真公をおまつりする神社の双璧であります。

天神様（菅原道真公）は、加賀百万石前田家の祖先と言われ、兼六園に隣接する“金澤神社”の御祭神です

金澤神社には、金沢という名前の由来となった“金城霊澤”という泉があり

自身が感じた事としては、龍（T）と鳳凰（K）が共に秘められていた、とても重要なスポットであり

12次元キリスト庁や13次元聖母庁につながる、神聖なる場所であるような気がします

天神様は、人類の根源への進化をサポートする、天界のトップ＆コア

“**New・GWBH**”（新 **G**）マスターなのでは？とも^^

NMCAA 参加当初、石川の自宅と本部をつなぐ拠点となっていたのが

京都にある娘の（大学時代の）仮住まいで、北野天満宮がすぐ前に見える場所でした

白山比咩神社例大祭では毎年、菅原道真公ゆかりの神饌である「梅枝餅（うめがえもち）」が供えられるとされ

また、金劔宮境内社の御祭神でもあり、白山神界と関りが深い、身近な存在と感じます^^

大御神社

御祭神　天照大御神　豊受大御神

天照大御神様の御神格は世界遍照（へんしょう）の精神であります。故に日の神と称えられ、万民万物全ての物に平等にその恵を与える最も尊い神様として崇められております。
豊受大御神様は食物、産業の神として五穀豊饒、産業発展をお祈りする神様です。
伊勢の神宮に鎮（しず）まります大神様で、天照大御神は皇大（こうたい）神宮（内宮）に、豊受大御神は豊受大神宮（外宮）にお祀りされております。
創立の頃は天照大神宮と称されていましたが、後に現在の大御神社となりました。

日本神界の中心＝伊勢内宮“天照大御神”と外宮“豊受大御神”、二にして一なる“KT”社です^^

白峰神社

御祭神　大国主神　少名彦名神　崇徳天皇

白峰神社は通称金比羅さんと呼ばれ、古来町民の崇敬を集めていたが昭和38年7月都市計画による道路拡張のため、昭和37年この地にあった舟越社の社殿を改築し、両社の神様を合祀することにしました。
現在の本殿、幣殿は新築、拝殿は白峰神社より移転し、左側の社務所は元の舟越社のものです。香川県の金比羅宮の祭神は大物主神と崇徳天皇であります。崇徳天皇の御陵は四国讃岐の白峰陵であります。この事から社名を白峰神社、通称、金比羅さんと呼ばれるようになったと考えられます。大国主神は別名大物主神（おおものぬしのかみ）、大己貴神（おおむなちのかみ）とも言われ、出雲大社の祭神であります。日本の国を造った偉大な神様で、今日では結婚、福徳の神様として崇められております。少名彦名神は、大国主神を助け国造りに力を尽くし、特に医薬法を教え害虫駆除の方法を授けたといわれるところから、今日では医薬の神様として信仰されています。

私の故郷の名前でもある“白峰”という言葉に、諸々反応してしまう私です（笑）
「崇徳天皇の御陵は四国讃岐の白峰陵」とあることから、崇徳天皇について、初めてフォーカスしたのですが
皇位をめぐる権力闘争に巻き込まれ、大怨霊とされていることを知り、痛ましく感じました
怨霊とは、集積されたネガティブなエネルギーが、特殊な力を持ったものであり、
個人のしわざというより、その回りにある、それと同じ波長をもつ意識＝集合意識の力によるもので
社会全体の責任といえるのではないでしょうか？
崇徳天皇を主祭神とする京都の“白峯神宮”は、明治天皇がその御霊を慰める為に創建した神社とされ
それほど大きな力を持つ存在という事なのだと思います
日本国を造ったとされる大国主神と、それを助けた少名彦名神、崇徳天皇が祀られている事から
白峰神社の後ろの正面は、凄まじいパワーの男性性＝素戔嗚であり、国常立大神である、T 神を感じます^^
あっ、確か三羽のカラスさんは、この辺にいたような。。。

諏訪社

御祭神　建御名方神（たけみなかた）

御名方は、「水の潟（かた）」という意味で、古くは農耕の守護神、ひいては生活の守護神として信仰されました。
建というのはこの神様が非常に強い神であったところからその威烈（いれつ）について付けられたものです。
中世以降、この日本第一の威烈の神、強い神として崇められております。
この神をお祀りしてあります総社は、信州の諏訪大社であり、諏訪湖の浅瀬の端に鎮座したところから付けられました。

諏訪大社は、全国に約 25,000 社ある諏訪神社の総本社と言われます
日本神話における建御名方神は、出雲の大国主神の子とされ
国津神の中で最も強い力をもつ神であったようですが、国譲りの物語においては
天津神の使いである“建御雷神”との力比べ（相撲の起源とされます）に負け、諏訪湖まで逃げていき
「もうここから出ない」という約束をして、諏訪大社の神となったとされます
神功皇后の三韓出兵や、坂上田村麿の東夷平定、武田信玄等を守護した、最強の軍神と言われるようです
他にも、日本最古の神社の一つであるとされ、古くから蛇（龍）神信仰が盛んであった事
また諏訪大社の御神体は守屋山（モリヤ山、ユダヤの聖地エルサレムの山）で
諏訪で継承されている御柱祭や御頭祭は、イスラエルに見られる風習ととてもよく似ていることから
日ユ同祖論（日本とユダヤの祖先は同じとする説）がささやかれる等、様々な情報を目にし
日本の神々について私達には知らない事、誤解をしている点が、たくさんあるのでは？と感じました
神話や定説を鵜呑みにするのではなく、そのエネルギーに直に触れ、自身が感じる事（真実）を大切にする事で
神と人とが共存する“神人の世”、新しい、∞の可能性の日本がはじまるのではないでしょうか^^

春日社

御祭神　建甕槌神　経津主神　天児屋根神　比咩神

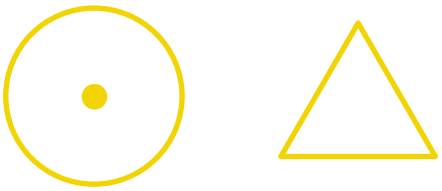
建甕槌神は常陸の鹿島神社の神
経津主神は下総の香取神社の神
天児屋根神、比咩神は、河合の枚岡神社（ひらおかじんじゃ）の神です。
藤原氏がこれらの神々を勧請して出来たのが、奈良の春日大社であります。
武甕槌という名は威烈の神力を仰いだもので、強い身体の持ち主になれるようにお祈りする神様です。
経津主神とは、強い力の持ち主という意味で、強い信念の持ち主になれるようにお祈りする神様です。
天児屋根神は言霊神（ことだまのかみ）で、神のお言葉を人に伝え、人の願い言を神にお伝えする神様であります。

こちらは春日社ということで、まずは“春日大社”についてネット検索…
ネットが普及するまでは、実際にその場所へ行くか、書物等を参考にしなければならず
かなりの時間がかかってしまう事を思うと、本当にありがたいです^^
（もしかして、ネットも神の計画の一部？）
ちょっと前まで、“神”と“インターネット”が結びつくなんて、私には想像も出来ませんでしたが
神界とは、時空の制限を受けないエネルギーの世界なので、地上社会が神々に追いついてきたのでは？
それぞれの神社の、真心のこもった、美しいホームページを見ていると
神々がネットを窓口として、私達に呼び掛けている時代なのかも？と思えてきます
人だけでなく、宇宙のあらゆる全てが進化し続けている
ミロクの世とは、バージョンアップした神々との、ワクワクする協働創造の場と考えると、楽しくなりませんか？
“奇跡”ってなんだっけ？と思うような、夢と希望が現実となってしまう
“ワクワク・ワンダーランド地球”です！^^

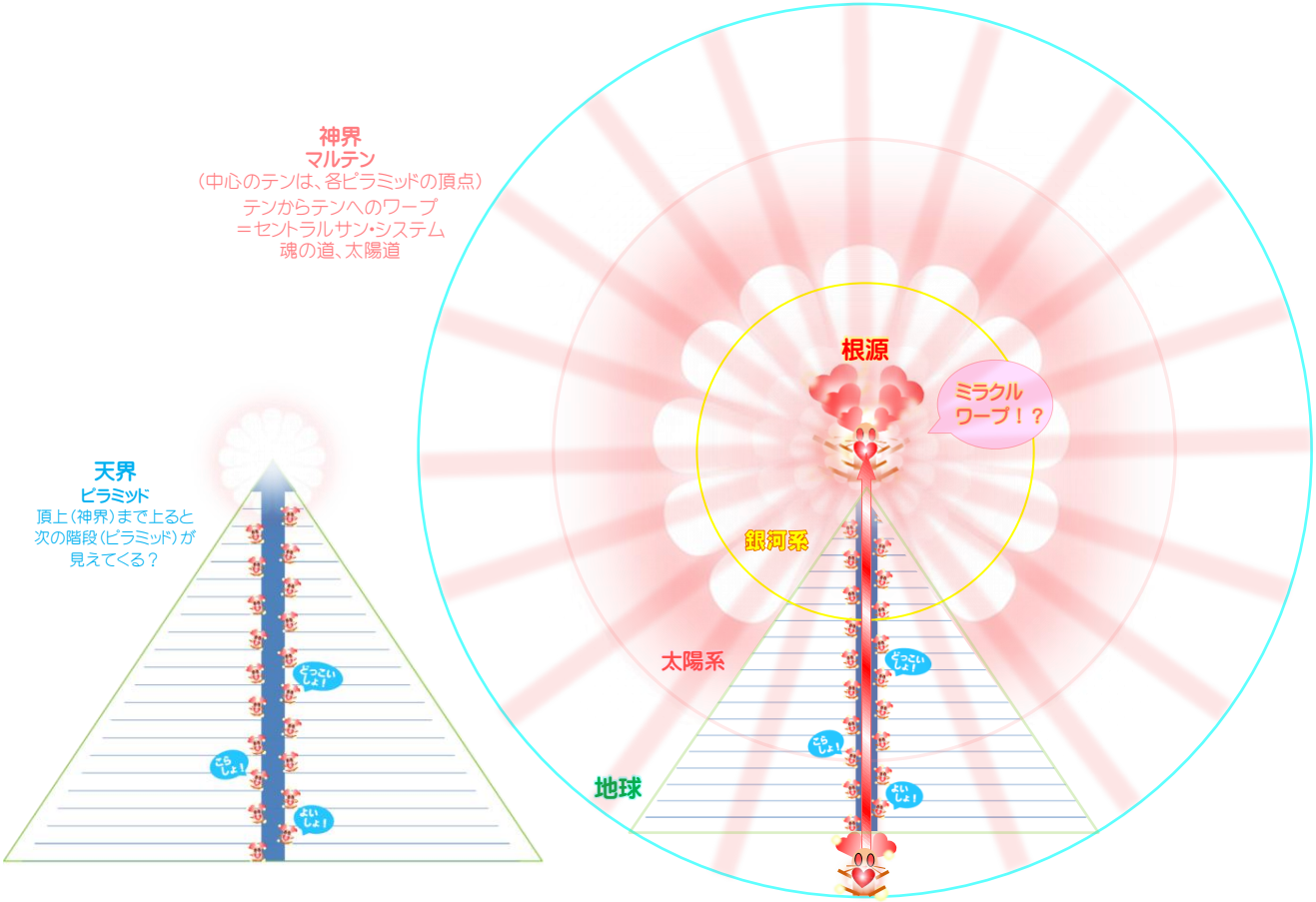
私が選択するのは、ワクワク ♡“ハム”♡ ワンダーランド地球！

みなが頂点（一番）を競うのではなく、みなが“根源の究極の愛”という中心へと向かっていく世界です

宇宙の様を表す形象として、“マルテン”（神界）と“ピラミッド”（天界）があります



下記は、2020年のコンテンツ『ハムのワクワク神智学（2）』の中で、自身が作成したイメージ画です^^



宇宙を大きく、神界、天界、地上界（人間界）という3つに分けて、その関係について考察してみると

神界とは、神々による創造の世界の事であり、

天界とは、神の働きを助け、人と神とをつなぐ場（存在）となります

天界には、スピリチュアル・ハイラーキーや天使等と呼ばれる存在が活動していて

まるで何層にも重ねられた“ピラミッド”のように、位階がくっきりと分かれ、並んでいるとされます

私達の社会はまるでこの“ピラミッド”のようで、最上段は限られた存在しか到達出来ない

特別な場所…というイメージです

それに対して神界とは、宇宙全体を表すマルと、その中心のテンだけがある、“マルテン”の形象で表され

そこには、「高低（上下）」や「優劣」等、対比の概念は一切ありません

すべて（マル）が中心（テン）とつながっていて、“テン”はあらゆる全てが一体となった

“至福の境地”＝“究極の愛”の世界であり、これまであまり知られていなかった神界の姿なのだと思います

天界＝ピラミッドのトップ（頂上）は、神界＝マルテンのテン（中心）である事に気付いていなかった。。。

私の中でトップとは競うもの、または、他に譲るもの…という考え方しかなかったような気がします

けれど、誰もがトップになれるのであり、否、トップにならなければならない――

私達一人一人が、自身の願う最高を、手に入れなければならない――、それが神界の願いであり

あらゆる全ての統合、ワンネスへの道、人類が真に目標とする進化の形なのだと思います

アトランティスのアセンディッド・マスター“ヘルメス・トス”の

「上にあるが如く下にも　内にあるが如く外にも」という言葉が浮かんできます^^

私たちの中心にある、“ハートと魂”はすべてを知っています

“ハート”は人体に備わるエネルギーセンター、チャクラであり、天界（宇宙高次）への窓口

ハートの奥にある“魂”は神の分御魂であり、神界とつながっています^^

“ハムワンダーランド地球”創成が私の願いであり、手にする現実です！(*^^*)

なんだか脱線してしまった感じもしますが、これが私と神々とのコミュニケーションの形なのかも？

春日大社の御祭神である建甕槌神は、茨城県にある鹿島神宮の御祭神です

香取神宮御祭神である経津主神と共に、天孫降臨に先立ち地上界へと天降り、国譲りを成功させました

また、鹿島神宮と高千穂神社を結ぶ直線は、皇居、明治神宮、富士山、伊勢神宮が並ぶ夏至のレイラインとされ

太陽が鹿島神宮の鳥居から西に進むことから、「すべての始まりの地」と言われるとの事で

まさにこのタイミングでの決意宣言！となったのではないでしょうか？！^^

（カラスさんに蹴られた？意味も、わかってきたような。。。）

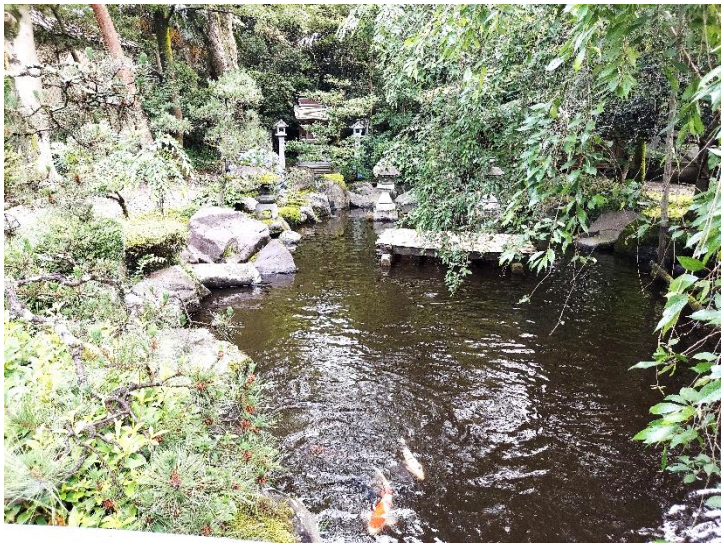
御本殿へと向かうまでの間に、境内社に祀られている神々のエネルギー（守護）に触れ

私にとっては難文と感じられた上記≪境内社について≫の理解が、少し深まった気がしています^^

子安社

御祭神　木花咲那姫命

元境内社の塩越社に祀られておりました木花咲那姫命の御神体を遷座いたしまして子安社と命名し、子授かりの社といたしました。
伊勢神宮の宇治橋を渡って右に行きますと内宮がございますが、直進してすぐに木花咲那姫命をお祀りした子安神社があります。
そこで当宮も子安社といたしました。



伊勢神宮内宮に、木花咲那姫命をお祀りした子安神社があったことを初めてしりました^^
神社によって神々の祀り方にも個性があるように感じられ、それはとても素敵な事と思いました！
子安社の前には、美しい鯉が泳ぐ池があり、私はここが最も癒される空間でした
応神天皇を生んだとされる神功皇后（天照皇太神荒魂）が、木花咲那姫（幸魂）の姿となって
ここで見守っているのかもしれません^^

高良社

御祭神　蛭子命
竹内宿禰公
源頼義公
藤原鎌足公

蛭子命以外は歴史上の人物、応神天皇と若宮八幡宮に関わりの深い御霊が祀られているようです

稲荷社

御祭神　豊受比咩神　大田神

豊受比咩神は、伊勢の外宮にお祀りされている、食物をつかさどる豊受大神の別称となります。
大田神は、猿田彦命（さるたひこのみこと）の子孫とも別称ともいわれております。天孫降臨の際、道案内をした神様で、転じて交通安全の守護神ともいわれております。

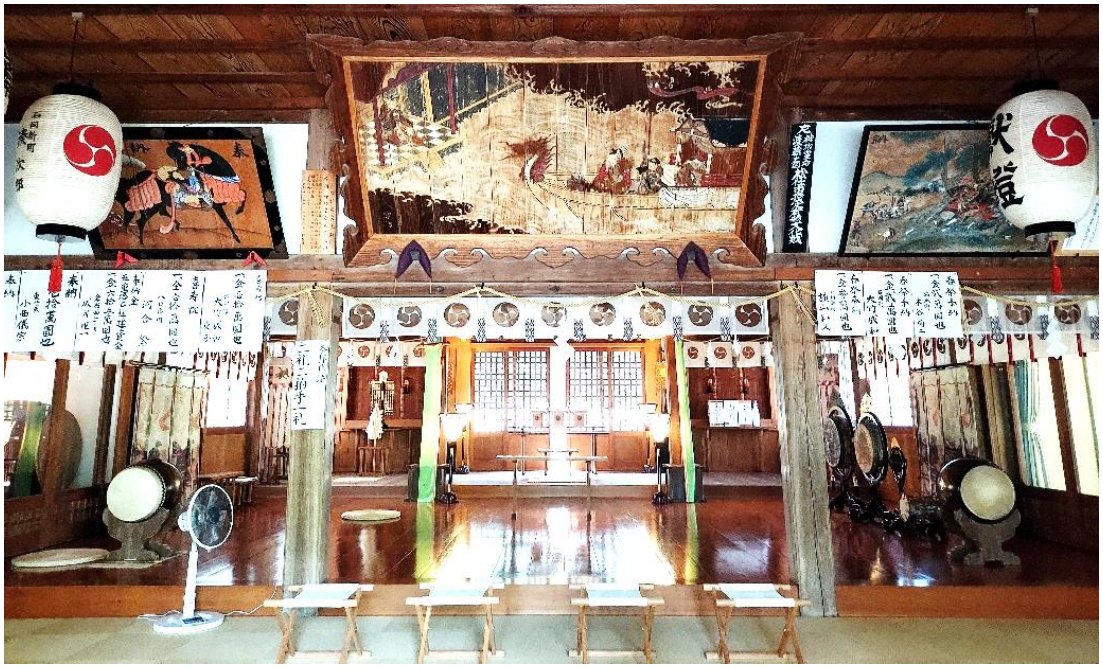
本殿の手前にあるのが八幡神社（K 神界）と同じく、最も多い神社とされる稲荷神社（T 神界）です
こちらの祭神名は“豊受比咩大神”となっていて、私には中性的とでもいうか？

KとTの合体版であり、秘神でもある“菊理姫？”が連想されます^^

そして“大田神”は天孫降臨の際に、瓊瓊杵尊の道案内をした猿田彦命の子孫とも言われ

やっぱり応神天皇は、瓊瓊杵尊の再来（分身）では？と思うのでした

いよいよ、拝殿（本殿）に到着です！



なんと煌びやかな！まさに、日嗣（太陽神界）の御子“応神天皇”です^^

正面頭上で、強力なインパクトを放っているのが、白山市指定有形文化財の『神功皇后渡韓之図』です

江戸時代後半のもので、画面右側には、龍頭船に乗った神宮皇后と竹内宿祢ら武人達が配され、

波をはさんだ左側には、臣従を誓う新羅王が描かれているとの事です

もしかして、神宮皇后（根源天照皇太神）、応神天皇（瓊瓊杵尊）、そして比咩大神（白山菊理姫）の

中今最新の“八幡神”が、今ここに揃ったのでは？！

真っ白な“根源の光”の中に浮かぶ、根源の母と子の、三位一体パワーです！

あの時カラスさんに追い返されたのは、時期尚早の為？

まだ、内（自己の内面）、外（様々な環境）ともに、準備が整っていなかったからで

根源父神の、愛の表現だったのかもしれません^^

地上セルフは、新しい地球と宇宙（NMC）創成の、“根源の皇の道”を、
真っすぐに進みます！！！

最後に太陽をバックにして“大鳥居”を撮ろうと構えたのですが
目には凄く眩しい光が、何故か携帯レンズの向こう側に感じられません（太陽がいない？）
変なの？と思いながら、帰宅後再度見てみると、太陽が下に？！

鳥居の中に、小さな、オレンジの色の玉が見えます？

そこで思い出したのが、若宮八幡宮の≪建立の物語≫です

鎌倉将軍の御代、日輪（太陽）が二つ現れました。不思議に思った将軍は占いをさせたところ、
一輪は変化の物（ニセ物）であるから射落としてしまいなさいという事になりました。
加賀の国の富樫介が、その時鎌倉にいましたが、将軍から、誰かよい射手がいなきかと問われ、富樫介は、

「私の家来に山上新保介という者がおります。この者に射手を申し付けましょう。」と加賀松任より、
新保介を呼び寄せました。新保介は、変化の者を射落とすために、相洲由比郷の若宮八幡宮に祈願いたしました。
祈願すること七日目の朝、変化の物を射落とす事のできるお告げがあり、神前にお参りをし、
天に向かって矢を射たところ、手ごたえがあり白鳥を射落としました。
日輪の変化の物とは白鳥だったのです。
面目を施した新保介に、将軍より何か望むものはないか申してみよと言われ、
しからばこの相洲由比郷の若宮八幡宮を加賀松任に勧請したいと願い申し上げたところ、願いどおり許されました。
山上新保介が、加賀松任に戻った四月六日、四町四方の青田が少しも減らず、
一夜にして鎌倉の草木おい茂れる森が出現し、森の中に八尺の白羽の矢が自立していました。
そこで勧請地をこの地として、白羽の矢の自立していた処に御本殿を建立し、この地を由比加新保と名付けました。

もしかして丸い玉は“変化の物”、射落とされた日輪では？
そう思う理由は、鳥居を出る直前に目に止まったのが、矢の射手である山上新保介の廟で
そこには、変わった月形（弓矢の形？）の窓があったからです

“変化の物”＝“二セの太陽”とされていますが、その姿は「白鳥だった」とある事から
決して好ましくないもの（不吉なもの）という感じはありませんでした

変化の日輪とは、
その時存在していた、もう一つの可能性の未来（燦々と輝き渡る太陽の時代）の事で
一夜にしてこの地に出現したとされる森に突き立られた“白羽の矢”の意味だったとしたら。。。？

ここ（場所ではなくポータル）**には、神々によって予言された（託された）、新しい未来のはじまりがある！！！**